



Narashino International Association

SQUARE スクウェア

季刊会報

第 89 号

2010年3月1日

Narashino International Association (NIA)

習志野市国際交流協会主催「第2回ふれあい祭」 寒い日にもかかわらず盛況な一日でした

2月13日(土)午前10時から「第2回ふれあい祭」が京成津田沼駅前のサンロード6階で開催されました。当日は曇(みぞれ)の降る寒い朝でしたので、関係者は出足がにぶるのを心配しましたが、結果は用意した椅子席では足りないほどの賑わいとなりました。会場は3時の閉幕まで笑顔と拍手が続いていました。



(英語講座メンバーの英語によるコーラス)



(予想を上回る賑わいとなった観客席)



(中国語講座メンバーの中国語に関するクイズ)



(アメリカの若者はすっかりお祭り気分)



(本場のベリーダンス)



(ジャンケンゲーム)



(最近のマリオネット)

なお、当日午前11時から同ビル5階の和室で「生け花体験教室」が行なわれ、ここも受講者で満席となりました。

寒い中、ご来場いただきました皆様には心よりお礼を申し上げます。

「世界の料理教室」ベトナムの家庭料理

担当 文化委員会

1月22日の「世界の料理教室」は、菊田公民館の調理室をお借りして、ベトナムの家庭料理講座を開催しました。ベトナムは石油、鉄鉱石、錫など天然資源に恵まれ、また、ハノイ、ホーチミン、フエ、ハロン湾など観光地も多く、目覚ましい経済発展を遂げている国です。今回の受講者は男性3人を含む16人となりました。教えてくださる先生は、NIA会員で、千葉工業大学に留学中のナム（Do Duc Nam）さんとダオ（Nguyen Dang Dao）さんです。今回は代表的な家庭料理「フォ・ボー」と「生春巻（なまはるまき）」の作り方を教えていただきました。



フォ・ボーは、どんぶりに米の麺を入れ、ゆでた薄切り牛肉とスジ肉をのせ、その上にスライスした玉ネギ、万能ネギ、香菜のパクチなどを散らし、スープをかけたものです。お好みで、唐辛子やライム、コショウなどをかけて食べます。

生春巻はゆでたエビ、ゆでた豚バラ肉、卵焼き、ビーフン、生のニンジン、レタス、キュウリ、大葉、ニラなどを半透明の生春巻の皮（ライスペーパー）で巻いたものです。大体キュウリの大きさになりますが、それを真中で切って、お皿に載せます。つけ汁は、ニョキマム（魚醤油）を薄めたものに唐辛子やニンニクなどの刻んだものを加えます。エビやニンジンの赤、卵焼きの黄、ビーフンの白、ニラやレタスの緑などが半透明の春巻の皮を通して見え、とてもきれいで食欲を誘いました。

フォ・ボーは下ごしらえにかなりの時間をかけます。先生たちは集合時間の約1時間前からスープの基になる豚骨を大鍋でゆでる作業を始めていました。香り付けに大型の生姜しょうが、シナモン、八角、玉ネギなどを直接火であぶり焦げ目がつくまで焼き、袋に入れてスープ鍋で煮出すなど、実に手の込んだ下

準備をするなど彼らの発想には驚きました。



（右から2人目が料理指導をするナムさん）

生春巻の中身を作る3卓の調理台では、先生のいないところは手持ち無沙汰となり、自分たちで適当にスジ肉を細切りにしたところ、実は薄切りにするべきでした。また、ニンジンニンジンを千切りにしたところ、焼き鳥の竹串サイズが必要だったなど、チグハグもありました。それでもみんな和気あいあいとして、3卓ともほぼ同じ時間に2種類の料理を完成させることができました。



（バイン チュンを細ヒモで切るダオさん）

待ちに待った試食会は、笑顔に満ち溢れ、誰もがその美味おいしさに感動していました。

2人の先生がお招きした NIA の日本語漢字教室の講師横平正昭先生が試食に、駆けつけ、美しい師弟愛を披露してくれました。



日本語学習支援ボランティア活動 ～ 2009 年度の活動を振り返って～

日本語学習委員会 田中 芳恵

日本語学習委員会の活動には 4 つの大きな柱があります。

- ① 在住外国人に対する日本語学習の支援
- ② 在住外国人との異文化交流
- ③ 市内小・中学校での国際理解教育の支援
- ④ 日本語学習支援ボランティアの確保

①の「在住外国人に対する日本語学習の支援」は、「スクウェア」88号で紹介しましたので省略します。

②の「在住外国人との異文化交流」は、各種行事を通して日本語受講者に日本文化の体験学習を実施しています。一方、開催行事としては、日本語教室の時間に、日本語学習ボランティア（以後、日本語ボランティア）が季節に合わせて工夫を凝らした「七夕まつり」（7月）・「新年茶話会」（1月）・「スピーチ茶話会」（3月）を催します。さらに、教室終了後、希望者には「あすなろ会」（「スクウェア」87号で紹介）と名付けた書道教室・房総花寿司作り・折り紙などの体験学習教室を開きました。そして、7月の市民祭り「きらっと 2009」のサンバパレードでは、日本語ボランティアの指導でサンバダンスの練習をし、祭り当日は外国人学習者とその家族・友人及び日本語ボランティア 8 名の計 23 名が参加して、華やかなムードを盛り上げました。昨年の「第 2 回 NIA ふれあい祭」では学習者たちが自国の文化や食べ物・音楽などを紹介し、クイズ・ゲームなどをして楽しみました。

日本語学習支援は生徒一人に先生一人というマンツーマンなので、日本語ボランティアが 100 名程います。これら多くの日本語ボランティアたちは、普



（新年茶話会でお屠蘇の説明を聞く外国人生徒たち）

段顔を合わせる事ができないので、講師間の交流をはかるため年 1 回「講師親睦会」を開催しています。それでも全員集合することはなかなか難しく、昨年 9 月の「講師親睦会」参加者は 33 人でした。

今年 2 月には松本明子先生（日本語教授法講座講師）をお招きして「講師研修会」を開きました。この研修会は、日本語ボランティアのスキルアップを図るために欠かせないものです。日本語ボランティアたちが経験した学習支援現場での問題点を共通テーマとして、情報・意見交換をしながら指導法などを学びました。

また、「ふれあい掲示板」を事務局内に設置して会員相互の情報交換の場としています。

学習者として在籍していたモンゴル出身のハンダスレンさんが、「モンゴルの恵まれない子供たちのために不要な文房具をください」と「ふれあい掲示板」に載せたところ、たくさんの文房具が集まり、モンゴルへ送ることができました。そして、今年度、MJ 協会より感謝状と写真が送られてきました。



③の「市内小・中学校での国際理解教育の支援」は、市教育委員会から要請があった場合行っています。

④の「日本語学習支援ボランティアの確保」も大事な活動です。今年の秋には「ボランティア養成講座」を開催しますので、興味のある方は事務局までお問い合わせください。

現在日本語学習委員会には外国人学習者約 100 名、日本語ボランティア約 100 名が登録しています。日本語ボランティアたちが一堂に会することは難しいので、実際の運営は各学習曜日を代表した 10 名の世話人が担当し、楽しく、やりがいがあり、責任のあるボランティア活動が安心してできるように「世話人会」を毎月 1 回開き、議事録を講師全員に配信し、情報の共有を図っています。私たちはこの活動が、日本人と外国人との交流を育み、共生し、和やかな社会を築く一助になることを願って、地道な活動を続けています。

アラバマ大学留学の思い出

習志野市大久保 島田 博行

姉妹都市タスカルーサ市にあるアラバマ大学に留学した私は、まず大学付属の語学学校に入学しました。大学入学の条件として、あるレベル以上の英語力テストの成績が留学生に求められました。日本の普通の大学生であった私がアラバマ大学の授業に英語で行ける自信などありませんでしたから、語学学校である程度勉強してから大学に編入することが現実的な方法でした。語学学校生にもアラバマ大学の学生証が発行され、図書館やカフェテリア、スポーツジムなど一般の大学生と同じように利用することができました。学生寮に入り、気さくなルームメイト3人と共同生活をしながら、アメリカでのキャンパス・ライフをスタートしました。



(アラバマ大学構内)

よく「アメリカの大学は勉強が大変だ」と言われますが、これは本当だと思います。前述の語学学校時代も毎夜宿題に追われ大変だと思っていましたが、大学に入ってからにはさらに大変で、「こんなに宿題出すの！」と本気で叫びたくなくなるほど容赦なく宿題が出ます。学部の授業はいわゆる専門分野ですから、英語はできて当たり前。英語で書いたものの内容が採点され成績になります。夜遅くまで大学の図書館で勉強し、その翌朝も、右手のパンをかじりながらバックパックを背負って教室に駆け込む、その時も左手には教科書をしっかり持っていました。

今ほどパソコンも普及していなかった時代です。「ライティングセンター」という建物に数台しかないパソコンを予約し、宿題のレポートを作文する。その合間に夕食の材料を買い、ついでに買ったお気に

入りのアイスクリームは努力した自分へのご褒美でした。我ながらあんなに勉強したことはその後の人生も含めて無かったかもしれません。大変でしたけれど、キラキラと輝いているような時間でした。



(現地の小学校からお願いされ、日本についての授業をした島田さん、後列右端)

留学を通じて何を学んだのかと聞かれたら、それは「何でも自分でやる」ということだと思います。勉強はもとより、食事（慣れない自炊）のためにスーパーへ買い出しに行きます。歩いては到底行かない距離でしたので運転免許を取り、安い中古車を買いました。クルマがあったおかげで週末はきれいなタスカルーサの街を巡って気分転換をしました。風邪を引けば医者に行くし、髪が伸びれば床屋へ行きます。あるときは英語が通じず、まるで「サムライ」のようなヘアスタイルにされてしまい、仲間と一緒に大笑いしました。また夏の間は学生寮が閉鎖されるため、学外にアパートを借りて一人暮らしとなり、電話をひく契約もしました。これらすべてのことが、日本で親元にいたら体験できないことばかりでした。

留学が終わり、タスカルーサ市最後の日、タスカルーサでお世話になった方たちが私のためにパーティを開いてくれました。大勢の方から「ありがとう」と言われたその美しい思い出が、大変だったことすべてをなつかしさに変えてくれ、現在の私の人生観に大きな影響を与えているような気がします。

今回は、習志野市出身のアラバマ大学留学生第1号となった島田さんにお話し、留学記を書いていただきました。本大学は姉妹都市タスカルーサ市にあり、1831年創立の米国でも指折りの長い歴史と伝統を誇り、学生数も2万人を超える南部屈指の大学です。

(姉妹都市部会 今井洋子)

韓国語講座について

語学研修委員会 西浦利清

習志野市国際交流協会では、今年度も韓国語講座を一年間開催しています。授業は、毎週火曜日の午前10時半から12時まで行なっています。講師は、韓国、ソウル出身のチェ・ウンヨン（崔恩栄）先生が担当してくれました。



（明るい授業が評判のチェ先生）

韓流ブームが続いているせいか、講座を受講したいという希望者は多く、幸運にも受講できた生徒さんたちは皆さん熱心な勉強家がそろっています。チェ先生によれば、この講座を終了すれば、韓国旅行に必要な最低限度の韓国語は、習得できるということです。また、韓国語が上達する秘訣は、韓国の文化に興味をもち、それを理解しようと努めることだそうです。それを実行すれば、単に韓国語だけを勉強する人よりも、はるかに速く上達できます。



（韓国の伝統的なお茶の楽しみ方）

韓国語講座は春・秋・冬、各学期10回ずつ、年間計30回の授業で構成されています。2月2日現在、冬季講座も4回目となり、あと6回で今年度の韓国語講座は終了します。残りわずかとなりました。皆さん一緒に最後までがんばりましょう。

当協会では、平成22年度の外国語講座は5月から、平成21年度と同様、韓国語、英語、中国語の講座を開催します。これらの外国語講座にご興味をお持ちの方は、事務局までお問い合わせください。



（2月2日の授業参加者、後列左から3人目がチェ先生）



（韓国語の授業風景）



（ソウルの世界遺産 南大門）

習志野市香澄 白井 聖 一

細川佳代子著「花も花なれ、人も人なれ」

(角川書店)



昨年10月下旬のある早朝、たまたまベッドの脇にあるラジオにスイッチを入れたところ、細川佳代子さんの対談が聞こえてきました。

その話を聞いているうちに彼女の足跡が知りたくなり、ネットで検索して、この本の存在を知りました。

彼女は細川^{もりひろ}護熙元首相の夫人です。本の内容は、有名人の余技といった類のものではなく、ひとりの中高年女性のすさまじい奮闘記でした。彼女とほぼ同年齢の私は、大いに叱咤^{しったげきらい}激励され、一気に読みほしてしまいました。

(本のごく一部を紹介します。)

身体障害者のパラリンピックとは別に、知的障害者が参加する「スペシャルオリンピックス」(SO)というものがあります。その趣旨は、「スポーツを通して知的障害者の自立と社会参加を図ろう」というものです。1968年米国のシカゴ市で第1回スペシャルオリンピックスが開催され、現在は180カ国以上の国が加盟し、250万人以上のアスリート(SOのスポーツトレーニングに参加している知的障害のある選手のこと)と70万人のボランティアが参加する競技会に発展しています。

この競技会が独創的で面白いのは、その競技内容です。スペシャルオリンピックスが一番大切にしていることは、「人に勝つことではなく、きのうの自分に勝つことです。そして、世界のナンバーワンになることではなく、世界のオンリーワンになることです。」あらゆる選手が参加でき、予選ではレベルに応じてクラス分けされ、参加者全員が決勝に進めます。1クラスは8人以下と決まっており、全員表彰されます。1位から3位までは金・銀・銅のメダル、4位から8位までは赤・青・黄・緑などに色分けされたリボンとなります。

知的発達障害者児童の教育に携わっていた鎌倉市

の山本貞彰牧師が1980年「日本スペシャルオリンピックス委員会」を設立しました。彼は「知的障害のある子どもたちは、本来は優れた能力や可能性をいっぱい秘めて生まれてきています。だけど自分ひとりではその思いを人に伝えたり、発表したり、発揮したりすることが不自由です。でも、もし家族や周りの人たちがその障害という特性を十分理解して、困難や不自由さをちょっとサポートしてやれば、彼らは本来の能力を発揮し、その人らしく社会で生き生きと暮らしていけます。子どもたちが幸せになるか、不幸な人生をおくるかは、周りの人たちの理解とサポート次第です。障害があることは不幸でも不運でもありません。理解とサポートのない環境に生まれてしまったことが不幸なのです。」という。

このような考え方を細川佳代子さんは、受け継ぎ、1994年「スペシャルオリンピックス日本」(SOJ)という任意団体を立ち上げました。やがてこの団体はNPO法人の認証を受け、2005年には長野市でアジア初の「スペシャルオリンピックス長野冬季世界大会」を開催し、2006年には認定NPO法人に昇格して寄付に対する税控除を受けられるまでに発展しました。

彼女は「スペシャルオリンピックス」だけでなく、1990年当時、ポリオ・結核・はしか・ジフテリア・破傷風・百日咳などの感染症で年間300万人、一日に8千人以上の世界の子どもたちがワクチン不足が原因で亡くなっているのを知り、1994年「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」(JCV)を立ち上げ、募金活動を精力的に始めました。

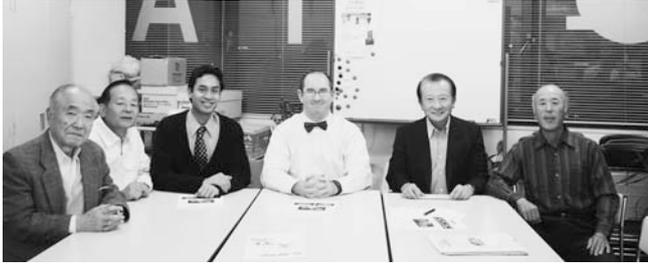
現在日本全国にあるNPOは約4万団体。そのうち、税控除を受けられる認定NPO法人は90団体ほどです。「スペシャルオリンピックス日本」と「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」がほぼ同時期、NPO法人に認定されたのは、彼女の熱意と努力の結晶と言えるでしょう。

実は、この本を読むまで、私は「スペシャルオリンピックス」という言葉すら知りませんでした。障害のある子どものご家族やいろいろなボランティアに参加されている人たちだけでなく、ごく普通の生活をされている皆さんにも、ぜひこの本をお薦めします。読み終えた後、きっと自分の気持ちが優しくなっているのに気づかれることと思います。

ALT とチャットしましょう

通訳ホームステイ委員会 山口 大二郎

月曜日の午後4時から5時までは待ち遠しいCHAT（英語でおしゃべり）の時間です。今年度のALT（Assistant Language Teacher）は、お洒落しゃれで若さにあふれたナイスガイぞろいです。



（左から3人目がモラさん、その右がベンさん）

最初は彼らの自己紹介から始まります。出身地の情景について地図を見ながら聞いていると、そこには私たちの知らない未知の世界が広がってきます。短い時間ですが彼らの体験談や考え方を聞いていると、日本人とは別な人生観が見えてきます。

すっかりお馴染みになったローラさんには夏休みに特別講座を開いてもらいました。彼女への「ご苦労さん会」は、居酒屋でみんなと語り、カラオケで

日米対抗をして楽しみました。

昔学んだ懐かしい英語の勉強をもう一度やってみよう、今度は英語を生かしてみよう、そんな動機から多くの方が国際交流協会に登録し、いろいろな活動に参加しています。

ネイティブ（英語を母国語としている人）と話す機会が少ない現状では、当協会が提供するCHATは最適な場所だと思います。皆さんがどんどんこの機会を活用されることをお薦めすすします。

6月には姉妹都市タスカルーサ市より14人の高校生訪問団がやって来ます。ぜひ歓迎交流会に参加して下さい。また、ホームステイにもご協力いただけますようお願い申し上げます。



（左から3人目がローラさん）

楽しいクリスマス会

青少年部会 陳 義 強



（写真再生ゲームに夢中の参加者たち）

青少年部会は昨年12月12日（土）の午後、事務局で恒例のクリスマス会を行いました。

事前に会議を開いて、当日食べるお菓子や飲み物、クリスマスケーキなどを決めました。それからクリスマスツリーを出して、日本語教室で勉強している外国の小学生たちにも手伝ってもらい、飾り付けをしました。

クリスマス会では、参加者を2チームに分けて、クイズゲームや写真再生ゲームなどを行い、勝ったチームは小さな賞品をもらうことができました。

クリスマス会と言えば、もちろん「プレゼント交

換」ですよ。クリスマスソングが流れる中、参加者には事前をお願いしてあった小さなプレゼントの交換が始まりました。何が入っているのだろう？ワクワクしながら袋を開けるみんなの笑顔は最高でした。用意したお菓子やクリスマスケーキを食べ、飲み物でお腹を満たし、おしゃべりもいっぱいすることができました。最後はビンゴゲームで盛り上がり、楽しいクリスマス会も幕となりました。

今回はインフルエンザで参加できなかった子がいたりして、いつもより参加者が少なかった。でも、今度のクリスマスは元気になって、みんなで参加し



（ワクワクした気持ちでプレゼントを開ける）

ましようね。きっと楽しいことが待っていますよ。

姉妹都市通信

姉妹都市部会 今井 洋子
奇跡と思うほどのお知らせ!!

先日、タスカルーサ市のマリ・マクファーソン理事から「クリスチャン君がミシシッピ大学に復学しました」という嬉しいお礼のニュースが届きました。彼のことは「スクウェア」(第86号)に掲載しています。彼は悪性ガンに罹

(かか)ったが、治療を受けながらも将来神父になる夢を抱いてネットで大学教育を続けていました。そんな彼を励ますため、私たちは荒木市長サイン入りの習志野高校野球部の帽子と市民の皆様から心のこもった千羽鶴を送りました。きっと皆様の善意が神様に届いたものと思います。

豆知識

この会報のタイトルは「スクウェア」(SQUARE)となっています。“SQUARE”という単語を英和辞典で調べると「正方形、四角、区画、(四角な)広場」という言葉が載っていました。ここで使っている「スクウェア」はその中の「広場」という意味です。

それでは「広場」って何でしょうか。「広場」を国語辞典で引くと「広い場所、共通の場」が出てきました。でも、一般に使われている「広場」の意味は「子供たちの遊び場所、空き地」ではないでしょうか。この会報で使っている「広場」の意味はそれらとは少し違います。

紀元前6世紀頃の古代ギリシャでは、18歳以上の全市民に参政権が与えられていました。彼

らは「アゴラ」とよばれた「広場」へ集って、政治や経済について自由に議論をし、みんなで問題解決を図る直接民主政治を行っていました。そのなごりで、欧米では「広場」という言葉には「みんなが語り合う場」という意味が含まれています。当協会の会報タイトルはこの意味で使っています。

次に「広場」という言葉を和英辞典で引いて見ましたら、“SQUARE,CIRCUS,PLAZA”という単語が載っていました。「サーカス」(円形広場)や「プラザ」(都市の広場)もギリシャ語が語源となっています。そんな訳で、千葉県内の国際交流協会には会報名として「プラザ」をもじったタイトルを付けている市もあります。

お知らせ

6月にタスカルーサ市高校生訪問団が来ます!

高校生・・・12名

引率者・・・リサ・キーズ専務理事、
カトリーヌ・ギャスコインさん

期間・・・6月10日(木)～21日(月)

歓迎会・・・6月12日(土)10時～13時まで

会場：サンロードビル6階大会議室

市民皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

訪問団の主な訪問・見学先(予定):

市長・市議会議長・教育長を表敬訪問→谷津自然観察センター、谷津バラ園→東京見学(皇居、お台場など)→習志野高校→千葉工業大学→富士吉田(富士山ミニハイキング)→横浜日帰り観光→相撲部屋など。詳細は「スクウェア」6月1日号及びホームページでお知らせします。

市民の皆さまへお願い

高校生訪問団の宿泊を受け入れてくださるホスト・ファミリー(ボランティア)を探しています。引き受けてくださる方、およびボランティアにご興味のある方は国際交流協会事務局(下記)までご連絡下さい。

スクウェア 第89号

発行 2010年3月1日

習志野市国際交流協会

発行責任者 山田大三
編集責任者 白井聖一

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼5-12-12
サンロード津田沼4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www.nia08.com/>
<Eメール> nia@seaple.ne.jp